

研究構想シート		学校名	松江市立湖東中学校
		氏名	渡部 進
A 研究主題		豊かな関わり合いの中で ともに課題を解決しながら 未来を切り拓く生徒の育成 — 自他を認め合いながら 自己有用感を高め 意欲的に学ぶ生徒育成の工夫—	
B 研究の目的		①社会的・地域的要請(Society7.0など) ②生徒が将来生き抜く上で必要と考える資質・能力(Well-Beingなど)「自己の課題をとらえる能力」「単独での課題解決が困難な場合、協働して解決策を模索する能力」「正当な解決策を見だそうとする能力」の育成を図るため	
C 子どもの実態 【学習面】 ・学習活動に対して意欲の高い生徒もいる一方、授業に向かない生徒がいる。 ・基礎的・基本的な学力の定着が定着していない。 ・授業内容や速度についていけない生徒もいる。→劣等感となる。 【生活面】 ・自分の志向に同調する者同士でグループ化し、志向の違うものを避ける傾向にあると考える。 ・授業、生活など公共の場において、同調できず授業等を停滞させる。 ・教職員の指示が聞けない、聞こえない生徒の存在と周囲の影響。 【家庭に起因すると考えるもの】 ・ICTツールの取り扱い(ゲーム依存、睡眠不足など。) (全国学力調査、島根県学力調査、本校意識調査、教師の見立てより)	E 手立て・内容(研究仮説) 【研究仮説】(予定) ○他者から認めてもらふ経験を積み重ねれば、自己有用感を高め、意欲的に(楽しく)学習活動に取り組む生徒が育つであろう。	D めざす子どもの姿 1.「自己有用感」「安心感(居場所)」が持てる生徒 ・自分は学級、学校の中で必要とされる存在であることが実感できる生徒 ・自他の関係を大切にし、互いが安心感をもって人と関わることができる生徒 ・公共の場であることを自覚し他者に対して気遣いながら生活できる生徒 2.「楽しく学ぶ」生徒像 ・「わかった」「できた」を実感できる生徒 (基礎的・基本的知識・技能) ・他者と協働することの楽しさを実感しながら学ぶ生徒 (豊かな情意の高まり) ・他者と協働することで、豊かな発想に気付かされ、自己に取り込もうとする生徒 (「主体的で対話的な深い学び」へ→ICTの積極的な活用) 3.「応援される生徒像」 (生徒指導のアンケートから)	
	F 検証方法 (1)授業改善について ・思考ツール「Google Workspace for Education」の積極的活用 ・まず思考ツールに慣れさせる。主体的で対話的な深い学びの場面を生み出す。 (2)基礎的・基本的な学力の定着 (3)パート活動、委員会活動の充実 ・「未来を切り拓く4つの視点」の意識づけ (4)道徳教育・人権教育の充実 (5)総合的な学習(小中一貫教育、ゲストティーチャー、ICT活用など)		
	G 研究計画 1. 研究構想の共通認識(主題、目的、方法など)職員会議 2. 検証項目の確認 3. 仮説にそった、学年経営案、学級経営案、教科年間計画の作成 4. 授業改善のためのICT使用方法の研修 5. 教科、学年部でのICTの積極的な活用実践 6. 研究部会に研究計画の提示 7. 授業改善に向けての実際の授業RPDCAから「主体的で対話的な深い学び」に向けて 8. 意識調査と指導主事による指導 9. 意識調査と指導主事による指導 10. 研究部会による進捗状況など確認 11. 意識調査 12. 1年次のまとめと指導主事による指導		